

平成 29 年度「特別支援教育に関する実践研究事業（次期学習指導要領に向けた実践研究）」  
成果報告書

受託団体名	山口県教育委員会
-------	----------

## I 概要

## 1 モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	けんりつうべそうごうしえんがっこう 県立宇部総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	けんりつやまぐちみなみそうごうしえんがっこう 県立山口南総合支援学校

※協力校（モデル校の取組をサポートする学校）

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	けんりついわくにそうごうしえんがっこう 県立岩国総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	けんりつたぶせそうごうしえんがっこう 県立田布施総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	けんりつしゅうなんそうごうしえんがっこう 県立周南総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	けんりつとくやまそうごうしえんがっこう 県立徳山総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	けんりつほうふそうごうしえんがっこう 県立防府総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	けんりつやまぐちそうごうしえんがっこう 県立山口総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	けんりつしものせきみなみそうごうしえんがっこう 県立下関南総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	けんりつしものせきそうごうしえんがっこう 県立下関総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	けんりつとよらそうごうしえんがっこう 県立豊浦総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	けんりつはぎそうごうしえんがっこう 県立萩総合支援学校

## 2 研究課題

5部門で行う山口県特別支援学校技能検定やコミュニティ・スクールの取組を生かし、特別支援学校の教育課程や作業学習等の授業における指導内容・方法、評価の改善について研究する。

## 3 研究の概要

本県においては、障害のある子どもの自立と社会参加をめざし、山口県特別支援学校技能検定（以下、きらめき検定という。）の開発や、すべての県立特別支援学校においてコミュニティ・スクールの導入に取り組んできた（来年度すべての県立特別支援学校に導入）。これらの取組は、「主体的・対話的で深い学び」や「社会に開かれた教育課程」の実現をめざす次期学習指導要領の改訂と軌を一にするものである。

きらめき検定の開発・実施においては、指導マニュアルや評価表の作成、生徒の意欲の喚起や学習内容の定着等に向けた指導方法等の検討をとおして、生徒が意欲を高め、生徒同士がかかわり合い、学び方を学ぶための教材の開発・活用を図る。そして、この取組を子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」の実現につなげたい。

また、コミュニティ・スクールの導入・充実においては、地域との連携による授業実践や販売活動、地域との日常的な交流をとおして、効果的な地域との協働活動の工夫や地域・企業の障害者理解の促進、地域とのつながりを意識したキャリア教育の年間指導計画の充実を図る。

さらに、次期学習指導要領においては、教育課程研究協議会や総合支援学校連絡協議会をとおして、各学校でカリキュラム・マネジメントの要となる教務主任を中心に周知を図るとともに、「社会に開かれた教育課程」の編成につなげ、次期学習指導要領の円滑な実施に資することとしたい。

## 4 研究の成果

### ア きらめき検定

- 「清掃」部門の本検定、「介護（シーツセット）」、「食品加工」、「流通・サービス」部門のプレ検定を実施した。

検定	清掃 (本検定)	介護（シーツセット） (プレ検定)	食品加工 (プレ検定)	流通・サービス (プレ検定)
受検者	48名	7名	6名	10名
参加校	9校	3校	3校	3校

- 生徒が受検したい部門や級を設定し、どうすれば目標を達成できるか教員とともに考えながら学習に取り組む生徒が増え、きらめき検定の充実が「主体的・対話的で深い学び」の実践の成果につながってきている。
- 技能検定の評価表や検定時の企業等の助言を教員と生徒が共有することで、「何を、どのように学ぶか」が明確となり、生徒は意欲的、主体的に学習に取り組むようになった。
- 生徒の真剣な取組を見守る保護者の就労に向けた意識を高めることができた。
- きらめき検定のマニュアルや評価表等の検討の取組は、授業における指導目標や指導内容・

方法の明確化とともに、県全体の作業学習等の指導の平準化の契機となった。

イ 特別支援学校における地域等と連携した開かれた教育課程の検討

- 教育課程研究協議会や総合支援学校連絡協議会等の機会を通しての成果
  - ・ 教務主任を中心に、次期学習指導要領の趣旨の理解や円滑な実施に向けての留意事項等の周知を図ることができた。
- 地域のショッピングモールでの作業学習等における製品の販売を通しての成果
  - ・ 他校の生徒・教員や地域の方々との交流を積極的に進めることができた。
  - ・ 接客から計算、準備・片付け等に非常に意欲的に取り組み、自信をつけることができた。

## 5 課題と今後の方策

ア きらめき検定

<課題>

- ・ きらめき検定の学習内容の教育課程への位置付けを工夫し、検定と日々の学習指導との双方向のフィードバックを促進する必要がある。

<方策>

- ・ きらめき検定の趣旨や試技内容、評価項目についてすべての特別支援学校に周知を図り、小・中学部も含めた全学部の授業において検定の取組の中で活用できる部分は取り入れ、指導の改善・充実につなげられるよう、必要に応じて情報提供・支援していく。

イ 特別支援学校における地域等と連携した開かれた教育課程の検討

<課題>

- ① 現行学習指導要領から次期学習指導要領への円滑な移行や「社会に開かれた教育課程」の実現に向けての更なる推進。
- ② 地域に暮らす人々や地元の企業に障害者理解・障害者雇用の促進をしていく必要がある。

<方策>

- ① 教育課程研究協議会等の開催や各学校の校内研修、学校訪問等のあらゆる機会を通じて全教職員に情報提供する。また、教務主任等が校内研修で周知を図れるよう資料を作成し、必要に応じて配付する。
- ② 来店した客にアンケートを実施したり、地元企業との共催を検討したりして、地域に根ざした教育活動を推進していくことで、障害者理解・障害者雇用につなげていく。